

安心救急ネット京都は、AEDの設置促進と応急手当の普及啓発を推進する京都市内の事業所ネットワークです。

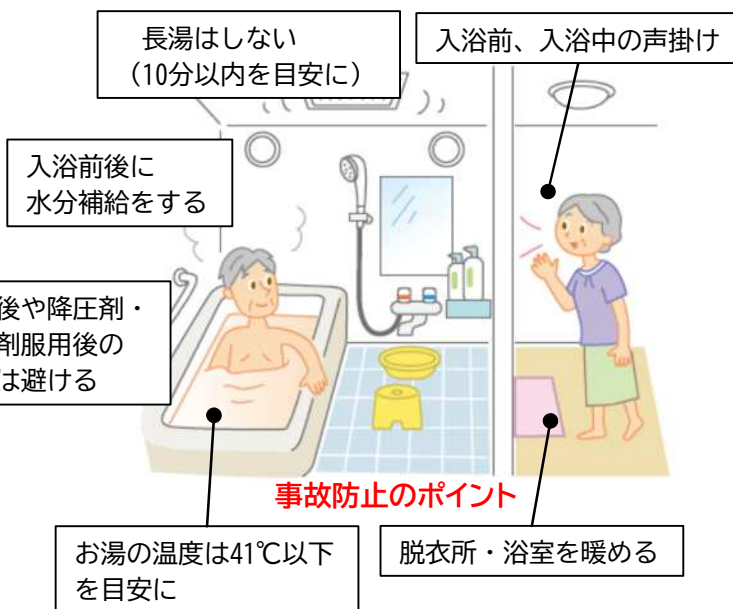


冬季に増加する救急事故に御注意ください！

入浴中の事故

気温が低下し、雪がチラチラ舞い始めるこの季節は、お風呂に入って温まることも楽しみの一つですね。しかし、冬季の入浴には注意が必要です。入浴時の体の状態や入浴環境によっては、**ヒートショック**による重大な事故につながるおそれがあります。

右図の注意事項を読んで、事故を予防しましょう。



入浴中の事故が起こったら

- ・反応がなければ「119番通報」をする。
- ・浴槽から引きあげて水没を防ぐ。(浴槽の栓を抜く)
- ・呼吸がない(分からない)場合は、心肺蘇生を行う。



お餅による窒息

年末年始は、お餅を食べる機会が増えるため、お餅を喉に詰まらせ窒息する事故が増加します。

お餅を食べるときは、**小さく切って、よく噛んで**食べましょう。また、一度にたくさん口に入れないようにしましょう。



窒息事故が起こったら



声を出さずにもがいている



顔色が悪くなってきた

- ・「喉が詰まったの？」と声を掛ける
- ・咳をする・させる

反応があるとき

119番通報(状況に応じて)

はいぶこうだ
最初に背部叩打法

ふくぶつきあげ
腹部突き上げ法
妊婦や乳児に対しては
行わない

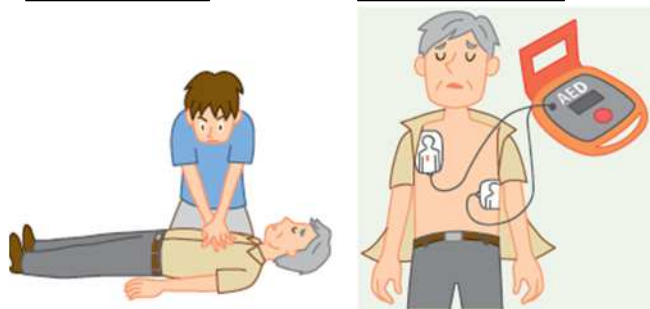


反応がなくなったとき

119番通報

心肺蘇生法

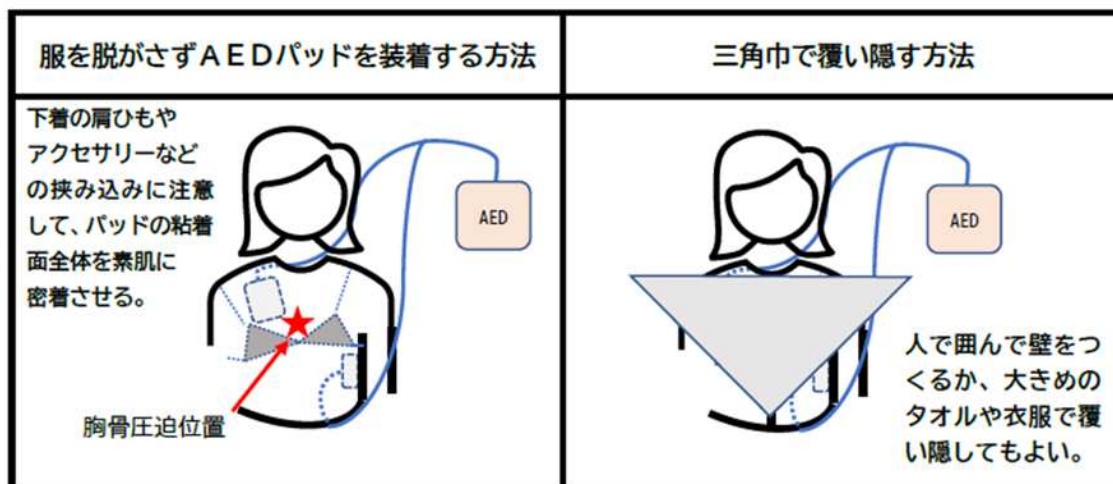
AEDの使用



AED使用時の配慮について



AEDを使用する際には、電極パッドを傷病者の**素肌に貼り付ける**必要があります。しかし、傷病者の衣服をはだけて素肌を露出することに抵抗を感じて、AEDの使用をためらってしてしまう場合があります。重症不整脈（心室細動、無脈性心室頻拍）を起こしてから、電気ショックまでの時間が1分遅れるごとに、生存退院率は7～10%低下するといわれています。消防局では、**AEDを性別に関係なく使用**できるように、さらにAEDの使用に対する**心理的抵抗感を軽減**できるように、消防署（分署）及び消防団のAEDに傷病者の胸部を覆い隠すための三角巾を配置しています。



AEDは点検が必要です！

AEDには、正常に動くかどうかを示すための**インジケーター**（AEDの状態を確認するためのランプや画面）が付いています。

また、電極パッドやバッテリーには**使用期限**や**寿命**があります。

AEDが必要なときに、きちんと使えるよう日頃から点検を実施しましょう。詳しくは、製造・販売会社にお問合せください。



- ・インジケーターの確認
- ・消耗品の使用期限の確認と交換

寒冷な環境下でのAEDの管理

AEDには、製品ごとに動作保証条件が定められており、その条件以外においての動作は保障されません。特に、気温が氷点下になるなど寒冷な環境下においては、**バッテリーの出力低下**や**電極パッドの凍結等**により、AEDが正しく作動しない可能性が指摘されています。

AEDの保管については、**氷点下とまらないように保管する**など、適切に管理しましょう。

AEDの設置促進及び京都市AEDマップへの掲載に御協力をお願いします

京都市AEDマップへの掲載及び掲載情報の変更等は、京都市消防局教育管理課（TEL 075-682-0131）までご連絡ください。

